

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業)
授業科目名：子どもの理解と援助 英語表記：Support for Children Based on Appreciation ナンバリング：2204			単位数：1単位 (半期) 演習 担当教員名：金子智栄子 担当形態：単独
科目／系列	／保育の対象の理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等／教科目	／子どもの理解と援助		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について説明できる。 2. 子どもを理解するための基本的な考え方、具体的な方法について説明できる。 3. 子どもの理解に基づいた保育実践における援助と態度の基本について説明できる。			
【授業の概要】 子どもを援助する際、子どもの発達や学びの状態を十分に理解し、対応していくことが重要である。本授業では、子ども一人一人の発達や学びを把握する意義を理解した上で、子どもを理解するための基本的な考え方・視点、具体的な方法について学んでいく。そして、子どもの発達に応じた援助や特別な配慮を要する子どもへの援助など、子ども理解に基づく、実践に即した援助、態度の基本について考える。			
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】			関連性
【知識・理解・技能】 1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。○ 2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。○ 3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。			
【思考・判断・表現】 1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。○ 2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。 3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。			
【関心・意欲・態度】 1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。 2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。○ 3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。○			
【授業計画】 第1回：保育における子ども理解の意義 第2回：子どもに対するかかわりと共感的理解 第3回：子どもの生活や遊び 第4回：保育の人的環境としての保育者と子どもの発達 第5回：子ども相互のかかわりと関係づくり 第6回：集団における経験と育ち 第7回：発達における葛藤やつまずき 第8回：保育の環境の理解と構成 第9回：環境の変化や移行 第10回：子ども理解のための観察・記録と省察・評価 第11回：子ども理解のための職員間の対話 第12回：子ども理解のための保護者との情報共有 第13回：発達の課題に応じた援助とかかわり 第14回：特別な配慮を要する子どもの理解と援助 第15回：まとめと授業内試験 定期試験：なし			【授業時間外の学習】 (毎回1時間程度) ・教科書を使って授業を進めるので、予習しておく。 ・発展的な課題レポートの提出を求める。(2回程度) ・授業では、アクティブ・ラーニングを取り入れるので、自分の考えを述べられるように、日常から表現力を磨いておく。

【授業の方法】 講義とグループワークを中心に授業をすすめる。小レポートをもとに討議し、講評する。	
【テキスト】 『共に育ち合う保育者をめざして』 金子智栄子(編著) ナカニシヤ出版 『保育者の力量を磨くーコンピテンス養成とストレス対処ー』 金子智栄子(共著) ナカニシヤ出版	
【参考書・参考資料等】 授業において適宜プリントを配布する。	
【学生に対する評価】 本授業の到達目標については試験(70%)によって評価し、学習意欲・自発的授業参加についてはリアクション・ペーパーや課題(30%)によって総合的に評価する。 ※教員と学生間の成績評価に関する認識を統一するためにルーブリックを活用する。	
【履修上の注意】 授業終了時に、リアクション・ペーパー(「まとめと振り返り」用紙)の提出を求める。	
実務経験の有無：有	実務経験：スクールカウンセラー、臨床心理士、 日本カウンセリング学会認定スーパーバイザー
【実務経験を生かした教育内容】 受容と共感の重要性を理解できるように、事例をもとに授業を行う。	